



マルホンの HOTですまいる

第17号



卷頭特集 日本医療ガス学会にて発表しました



10月26日（土）、軽井沢万平ホテルにおいて第17回日本医療ガス学会学術大会が開催されました。今年は群馬大学医学部麻酔学科の斎藤繁教授が大会長を務められたこともあって、地元のHOT事業者であるマルホンに発表する機会を与えていただきました。

テーマは「在宅酸素療法等における災害対策について」でした。先の東日本大震災の直後にHOT患者さまを対象にアンケート調査を実施しましたが、まずはその結果について報告しました。

●濃縮器をご使用の場合、停電になるとボンベに切り替えなければならないが、ボンベの使い方や、使える時間を忘れてしまう方がみられた。また取扱説明書が見あたらないという声もあった。このことから、現在使用している紐付きのボンベ取扱説明書を作成した。

●計画停電の初日（3/14）の電話受信は平



緊張しどおしの発表でした

常時の5倍近くあり、皆様にご迷惑をおかけした反省から、回線数を増やしたこと。

●災害時には皆様の在宅医療機器を動かすことを考えれば良いかというとそれだけではダメで、酸素ガスの調達や社内体制の確立、配送する車両やその燃料、また通信手段の確保などについても対策しておく必要があることなどを発表しました。

この発表の準備のためにあちこち調べ、ずいぶん時間を費やしましたが、ハード面の対策と同時にソフト面の備えも大切だということに気づきました。ソフト面とは「私たちマルホンが日頃点検にお伺いする際に、災害対策や火気へのご注意などを繰り返し患者様へお伝えしていくこと。」そして、「実際にHOT療養されている患者さまやご家族の方にもそれぞれ災害への備えをしていただくこと。」です。これについてはお伝えする方法を工夫して実施したいと思っています。

最後に、今回こうして発表できたことは、アンケートにご協力いただいた患者さま、そしてこの「HOTですまいる」をお読みいただいている皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

※なお、震災アンケートの結果は第9号で報告しています。ご希望の際は点検担当者までお申しつけください。



商品も展示しました。外は軽井沢の紅葉が美しかったです

いきいき HOTさん

群馬県吉岡町

黛 智夫 (81)
さん



去年の8月ごろから在宅酸素を使用し始めるようになって1年ほどたちました。ある日息切れを感じ、調子が悪いなと思い病院に行ったところ「特発性間質性肺炎」との診断を受けました。先生に「肺が悪く心臓に負担がかかっている、この病気は治らない」と言われ、ショックを受けたのを覚えています。そのまま入院し、退院と同時に在宅酸素を始めるようになりました。以前に煙草を吸っており、病気と診断されるときはやめていましたが煙草が原因であると感じています。また、入院を機に大好きであったお酒をやめ、健康に気を使っています。

現在、液体酸素を使っています。携帯用の酸素は軽くてとても気にいっています。テレビの前に座っているだけでは健康に良くないと思い、携帯用の酸素を背負って外に出るようにしています。初めは酸素を吸うことに抵抗がありました。他人の視線が気になり、カニューラを見せないようにマスクをして外出することもありました。しかし、



木の根を加工した作品たち

酸素がなければ動くことが困難と感じるようになり、次第に周りの視線が気にならないようになりました。今では動く際には手放せません。初めの頃は家族に酸素を充填してもらっていましたが、現在は自分で充填できるようになりました。また、電話で酸素を注文するとマルホンさんがすぐに配達してくれるので安心です。

4年前からひょうたん作りを始め、自宅の玄関には大小たくさんのひょうたんや木の根を加工した作品を飾っています。自宅でひょうたんを育て、種を出し乾燥させ色を塗る。着色はひょうたんを見て、黒と赤と黄色の三色を混ぜ、塗っています。色を出すのが難しいですが、もともと塗装業を営んでいたので色を塗るのは得意です。種まきから完成まで約5ヵ月かかります。過去に「広報よしおか」の取材を受け、木の根を加工した作品を紹介したこともあります。病気前と同じように動くことはできませんが、自分でできることをやっていき、趣味を続けたいと思います。



吉岡町の広報誌でも紹介されました

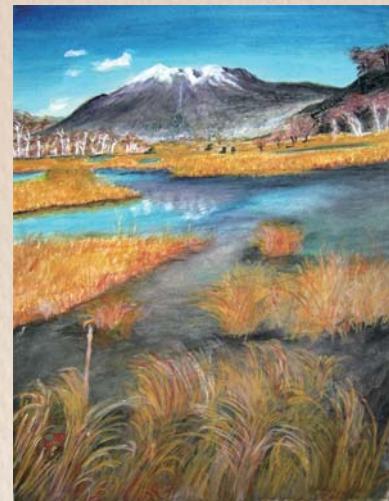
マルちゃん ギャラリー



「折り紙の作品」

体調を崩して入院した際に、リハビリの先生から折り紙を教えてもらい、自宅で折っています。

また、水彩画を家族の協力を得て描いています。最近ではサインペンでの絵を描き始め、色とりどりの絵を描いています。



「尾瀬」

前橋市 小林 芳子さんの作品(HOT歴3年8ヵ月)

当社は岩手県で医療用・産業用・家庭用など様々な分野のガス供給を行っている総合ガス企業です。医療ガス事業では院内ガスの他、在宅酸素療法や人工呼吸器、睡眠時無呼吸治療機器などの供給を行っています。

会社敷地内では呼吸器と睡眠の専門クリニックを開設。医療と在宅サービスを一体的に提供する体制をとっています。

当社の特徴は東日本大震災で発揮された災害対応力です。災害用酸素ボンベの備蓄、患者様宅への緊急用酸素ボンベの配備に始まり、ガソリンとLPガスを両方使えるバイフルーエル車の導入や無線・衛星電話による通信



2011.3.11東日本大震災の当日夜。
患者さんの安否確認を夜通し行うスタッフ

HOTの仲間たち

岩手県北上市
HOKURYO 北良株式会社

網の多重化、酸素充填設備の非常用発電機設置を行っています。

今後も盟友であるマルホンさんと一緒に災害に強い地域医療の構築に情熱を注いでいきます。

医療用酸素ボンベ配備へ



社長の笠井 健さん

2008年6月24日岩手日報
災害用酸素ボンベの備蓄を完了
大災害への備えを続けてきた

北良株式会社さんプロフィール

岩手県北上市和賀町後藤2-106-160
TEL. 0197-73-7222 FAX. 0197-73-7251
設立 昭和25年

11月はパッキン交換月間です

■携帯用酸素ボンベの圧力調整器には必ずパッキンが付いています。パッキンは酸素が漏れないようにするために欠かすことができません。長く使っていると劣化するので、マルホンでは毎年11月を「パッキン交換月間」としています。

点検でお伺いした際、担当者がパッキンの確認をさせていただきますのでご協力をお願い致します。



Vol. 17

頑張ってます! HOTな社員

皆さんこんにちは。生まれも育ちも渋川市の46才、3児の父です。マルホンに入社して20年、在宅医療部のお世話になつて12年になります。現在、在宅医療部の責任者を仰せつかっています。

日頃は雑用に追われ、皆さまの元へお伺いする機会が少なくなつてしまい、とても残念に思っています。でも件数は少ないですが、「皆様がより快適なHOT療

お出かけ前に残量の確認を

■お出かけの前には残量の確認をしましょう。特に病院を受診するなど時間の目途が立たないときは、携帯用ボンベは満タンでお出かけください。



残量に余裕があれば、気持ちも楽になります。



すずき たけし
鈴木 武
B型
血液型
好きな食べ物 酒の肴
嫌いな食べ物 特にありません
欲しいモノ 車(11年落ちなので)

養生活をお送りいただくために何ができるか」を考えながら、毎月患者さま宅を回っています。

マルホンでは「良い機器を、より良いサービスで」を合い言葉にしています。これからも「いいね!」と言っていただける機器とサービスをご提供できるよう努力して参ります。皆様からのご指導、ご提案もいつでもお待ちしています。

編集後記

■過ごしやすい季節になりました。食欲の秋と言いますが私自身食べ過ぎに注意したいと思います。濃縮器の点検で訪問する際、いつも暖かく迎えて頂き有難うございます。できるだけお話しできる時間をつくりたいと思っています。(いた)

■朝晩めっきり涼しくなり、すこしやすい季節になりました。今回から年4回、皆様に楽しく読んで頂ける記事をお届けしたいと思います。(オカ)

■寒くなり暑がりの私としてはうれしい季節がやってきました。気温の変化により体調を崩しやすいのでお気をつけてください。取材を受けていただいた黛さんにお礼申し上げます。(えのき)

■食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋・・・今年もHOTな季節がやってきました。今回から年4回、皆様にHOTな情報を届けられるよう努めさせて頂きます。(いしそき)

第17号

株式会社マルホン「HOTですまいる」編集委員会 発行責任者:鈴木武
2013年11月1日発行 前橋市問屋町2-16-11 TEL. 027-210-7222